

新潟教育研究所

令和6年2月22日発行 第54号

公益財団法人 新潟教育会
新潟教育研究所

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町590-3 新潟教育会館

TEL・FAX 025-222-2971
E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

語り継がれる授業

突然、面識のないフリージャーナリストから一通のメールが届いた。

城島徹と名乗る元毎日新聞の記者で海外特派員も経験した報道のプロである。取材に協力してほしいというのである。「なぜ、私に？」と疑問を抱きつつ読み進めると、終戦直後の新潟の授業実践を探りたいとのこと。

具体的には次のような内容であった。

- 愛知県の小学校教員がまとめた NIE (Newspaper in Education) に関連する論文の論評を依頼された。その論文は「戦後初期社会科における単元『新聞とラジオ』の特色～新潟第一師範学校男子部附属小学校における合科カリキュラムの現代的意義～」と題するもの。
- 単元「新聞とラジオ」は、1946年から49年の間に行われた先駆的な実践で、羽二生恵太郎先生が担当された。どのような授業であったのか追跡調査をしたいと考えている。
- ネットで検索したところ、吉田さんが「ときわ会」の代表挨拶で、終戦直後の新潟第一師範学校の統合的教育課程「新潟プラン」について言及していることを知った。ご協力願いたい。

城島さんのジャーナリスト魂に刺激を受け、早速、附属新潟小学校に確認したところ、当時の実践記録が残っていることが分かった。研究紀要は見当たらない年次のものもあったが、幸いなことに新潟教育会館の資料室に全て揃っていた。

約一ヶ月後、城島さんは現地調査のため新潟を訪れた。二人で附属新潟小学校、新潟教育会館を

新潟教育会 代表理事

吉田 隆



回り、資料に当たった。その資料の一つが「ぼくらと社会 六年生の単元学習」である。これは、羽二生先生が、子どもたちの願いを受け止め発刊に至った子どもたちの手による追求の記録集である。



城島さんは、目次にある児童名から複数の卒業生の所在を突き止め、この後インタビューを行っている。その一人が、「学級新聞の発行」について記した牧壮（まきたけし）さんである。現在87歳の牧さんは、当時

の授業を振り返り、「先生の方を向いた机の配列でなく、グループをつくり調べたことを子ども同士発表し、議論する授業でした」「羽二生先生の授業が私の人生の基礎になっていたことは間違いないですね」と語られたそうである。(牧さんは現在、文筆業と併せ、デジタル庁が任命する「デジタル推進委員アンバサダー」としても活躍している)。

羽二生先生の授業は、まさに、今求められている「主体的・対話的で深い学び」そのものであり、教え子にとっての「人生の基礎」となる力を育む授業であった。そして、75年の時を超えて、人と人との縁を結ぶ力をも備えていたのである。

当財団の新事業として、本年度から始まった「教育スペシャリスト育成事業」を通して、時を超えて語り継がれる授業実践が生まれることを期待している。

コミュニケーションのコツは？



新潟教育研究所 教育アドバイザー

金子明子

はじめに

日頃何気なく行っているコミュニケーション。よくある学校の場面から、コミュニケーションのコツを考えてみましょう。

1 保健室での子どもとの関わり

保健室で教室に行けない子が座っている時、あなたはどの位置で話をしますか？

- A 正面に立ち話す B 正面にしゃがんで話す
C 隣に並んで座る

もちろん、時と場合によりますが、私は、Cを勧めます。

Aの時、教師の視線は、その子を見下ろす形になり、威圧感を与えます。

BとCの違いは、体の向きです。Bは、対立する立ち位置にあり、Cは共に同じ方向を見ます。

私は、このような場面では、Cの位置でその子の隣に座り、まず、その子の気持ちを感じてみます。タイミングを見て、「どうした？」と声を掛けます。

その子が話してくるようなら、「うん」「うん」と話を聞きます。時々、「そうだよね」「いやだよね」などとあいづちを打つ感じですよ。

何も話をしてくれなかったら、その子の気持ちが今どんな状況かを体から読み取ります。まず、先生と子どもの関係を作ることを第一と考えてください。同じ方向を見て座る良さは、自分と同じ方向を向いてくれるという安心感を子どもに与えるところにあります。信頼関係がなければ、心は開いてくれません。まず、寄り添うことから始めてみてください。

2 保護者が不満を訴え、話をしに来た時

保護者が不満を訴え、話をしに来た時、何を大事にして話を聞きますか？

A どんなことに不満があるのかを聞き、きちんとどうしていくのか返事をする。

B どんなことに不満があるのかを聞き、相手の不満な気持ちを受け止める。

C どんなことに不満があるのかを聞き、学校に

落ち度がないことをちゃんと説明する。

保護者が、先生のところに来る時、ほとんどは、自分の不安な気持ちを聞いてもらいたいのです。

時には一見不満として先生にぶつけてくる時もあります。教員はついつい自分を擁護してしまったり、解決を急ごうと、すぐにこうしますとやることを伝えたりしがちです。

まずは、Bのようにじっくり相手の話を聞いてあげましょう。そして、つらかった気持ちにしっかり寄り添い共感を示してあげます。その後、どうしていったらいいのか、一緒に考えていくスタンスがよいと思います。

3 コミュニケーションのコツは？

コミュニケーションのコツは、「相手の話をよく聞く」ということです。相手が何を考え、どう感じているのか分からなければ、相手を応援することも解決することもできません。

相手を信じて、相手をよく見て、微笑みながら話を聞き、うなずいてあげる。まずは、「この人は、私の話を聞いてくれる人だ。」と思ってもらうことが大切です。そうすると心の扉が開き、本音が出てきます。本音は、言って大丈夫な相手にしか出さないのです。

「こうするべき」「こうしよう」と相手の心を無視して、話を進めようとする、心を閉ざしてしまいます。

ただ、こんなふうに関わりをしっかりと聞かせるためには、話を聞く先生自身の心が満たされ、余裕がないとできないのです。

それには、自分自身が幸せでいることがとても大切になります。

おわりに

先生方の心の余裕がコミュニケーションの力を高め、子どもたちも保護者の人も助けることができます。自分にストレスがたまったら、放っておくと体調がくずれてしまいます。ですからどこかにだれか相談できる人を持つとよいでしょう。

それぞれの力

新潟教育研究所 研究員

宮川由美子



はじめに

「かなりかかりますよ。」言外に「払えるのか？」という表情がありあり。さもありなん、90歳と70歳になろうとしている老女二人が心細げにしているのだから。年の始まりの日の地震でガス漏れ、断水、液状化、家屋の損傷と、まさに一寸先は闇を経験した。冒頭は、ガス管の修繕時にガス会社の人に言われた言葉である。

1 若い力

現場の担い手不足の支援に駆り出される大学4年生。教員免許取得見込みであるし、気力・体力共に満ちている若者は、どこへ行っても大活躍。そんな彼らが、時折、教職支援センターに顔を見せ、この対応でよかったんだろうかとか、こんなこと誰に相談していいんだろうか等、炬辺談話に花を咲かせる。「体育の授業後、道具の後始末を怠けている生徒に…」「進路の相談をされたけれど…」「〇〇のキャラクターで女子生徒と盛り上がったけれど…」私の答えはいつも同じ「貴方はどう思うの？」不器用な、垢抜けない、的外れな、それでいてどこか温かく、時にはキラリと輝く返答がかえってくる。

彼らは、今年度、〇を貰えなかった。当然落ち込んだ。でも、よくしたもので、時の流れは、彼らを一先へ先へと導いてくれた。その視線は、「面接前に、この経験をしてたらなあ。」「先生方の〇〇のやり方、試験前に知りたかったなあ。」と早くも、次年度の挑戦に向かっている。

2 自らを磨く力

「先生方の研修離れ」最近よく聞く。何か疑問があればスマホですぐ調べられる。指導案で行き詰まったら、インターネットで検索すればいくらでも出てくる。もちろん、それに飽き足らない先生も存在する。そんな先生方の頑張りを伝える一つの機会として、次ページに紹介した「教育スペ

シャリスト育成事業」を新規事業として立ち上げた。ある応募者は研究概要にメッセージを添えてくれた。「私は現在教職13年目となりますが、まだ、個人研究をしたり論文を執筆したりしたことがありません。機会をいただけたことに感謝し、この事業を通して身に付けた力やレベルアップしたことを子どもたちに還元したいと考えております。」

音楽仲間に、今まさに絶好調の先生がいる。教科を横断して、子どもたちをぐいぐい引きつける音楽授業を実践している。かと思えば、和楽器に挑戦したり、新しい音楽情報を求めて休日に東京へ出かけたりと自分磨きに余念が無い。

3 老人力と男子力

この度の地震で、一番驚かされたことは老人力（私ではなく母）である。翌日、大工さん、建具屋さん、水道屋さん、ガス屋さんが早々に駆けつけてくれた。水道とガスの仮復旧と家屋の応急処置がみるみるうちに行われていった。職人さんに言われるままに、罹災申請をし、屋根の調査と床下の調査をアドバイスされた。私も弟も、この人たちとの面識はない。全て、母の茶飲み友達の息子さんたちである。四方八方に繋がる老人力、恐るべし。そして、自分たちは被害が無かった弟と甥が正月休み返上で、力仕事や外回りの仕事に駆け回った。母は「やっぱり男の子だね。」「男の子じゃ無いとだめだわ。」としきりに言った。私は心の中で「悪かったわね女の子で」と呟っていた。

おわりに

いつもなら、ぐだぐだと食っちゃ寝を繰り返す正月休み。休み明けの体重増加に、毎年青くなっていた。しかし、今年は増加どころか、かなり減った。アルコール抜きだったものなあ。余震対策で母と一緒に部屋で寝ている。会話が增えた。これらを怪我の功名と言うのだろうか。

令和5・6年度

教育スペシャリスト 育成事業

今年度からの新規事業として「教育スペシャリスト育成事業」をはじめました。教育スペシャリスト育成事業とは、教職員の研究意欲と資質・指導力の向上を目的とする2年間に渡る事業です。応募者には、研究内容を審査の上、研究活動費が助成されます。1年目は実践の年、2年目は実践研究を研究論文としてまとめてもらい、選考委員会の選考を経た上で表彰します。

令和5年12月15日の締め切りまでに14名の応募がありました。ご応募くださった14名の先生方を紹介いたします。

氏名	教科領域等	勤務校	氏名	教科領域等	勤務校
佐藤 貴紀	特別支援教育	新潟市立新通小学校	高原 学	ICT教育	三条市立大崎学園
坂下 祐	国語	新潟市立葛塚東小学校	新井 陽	国語	新潟市立東曾野木小学校
佐々木泰史	外国語	新潟市立東山の下小学校	山川 将生	体育	新潟市立新通つばさ小学校
國井恒太郎	国語	新潟市立紫竹山小学校	大矢 寿和	外国語	新潟大学附属長岡中学校
笹川 歩希	体育	加茂市立石川小学校	大坂 睦	ICT教育	新潟市立新通つばさ小学校
吉田由香子	音楽	新潟市立桃山小学校	佐々木達弥	道徳	新潟市立木崎小学校
伊藤 陽子	国語	新潟市立新通小学校	藤井 大輔	算数	長岡市立川崎小学校

※敬称略

今後は、2月のガイダンスを経て、ご応募くださった先生方が教育実践研究を積み重ねていくこととなります。その成果を令和6年12月までに論文としてまとめます。この一連の研究活動を通して、教師としての専門性を高めていくことがねらいです。

論文は研究論文選考委員会を設置して、最優秀論文、優秀論文、入選論文を選考します。入選以上の論文は新潟教育会ホームページに掲載するとともに CiNii に登録し、広く検索してもらえるようにします。令和7年3月に表彰式を行い、最優秀論文には5万円、優秀論文には3万円、入選論文には1万円の研究助成金を贈呈します。

